

相互理解を通じた 持続可能な社会の担い手育成

— ユナイテッド・ワールド・カレッジの活動紹介 —

ユナイテッド・ワールド・カレッジ(UWC)日本協会会長
朝日生命保険最高顧問

藤田 讓
ふじた ゆずる



地球温暖化に見られる気候異変や環境危機が危急の課題となり、世界の不確実性が高まる中、持続可能で包摂的な社会の実現に向けて、あらゆる組織と全ての個人の意識と行動の変革を加速化することが求められている。

これからの社会に必要なのは、多様な価値観の人々と対話し協働しながら、課題解決のために新たな道を切り拓いていける人材である。

本稿では、宇宙飛行士の星出彰彦さんはじ

め、多様な分野でグローバルに活躍する日本人を数多く輩出しているUWCの活動を紹介します。併せて、持続可能な社会の担い手が備えるべき資質を理解するとともに、その資質をどのように磨いていくかを考えたい。

多様な価値観を尊重したうえでの コミュニケーション

UWCのミッションは、「教育を通して様々

な人、国、文化をつないで、平和と持続可能な未来を築く」というものである。従って、カレッジが求める生徒像として「他の人と接し尊重し合って、チーム一丸となって働き、解決策を見いだす能力」「自分のみならず周囲に好奇心を抱き、学ぶ姿勢」「時に柔軟に、時に責任を持って、自分の信念に基づき行動する姿勢」などを掲げている。

入学後、生徒達は、寮生活を通じて世界各

国の生徒と寝食を共にする。カレッジの方針として、異なる人種や地域の生徒を同室にすることとなり、文化・価値観・慣習の違いを肌身で感じ取る力を自ずと身に付ける。そして、時に意見の衝突や戸惑いを感じながらも、差異を受け入れたうえでコミュニケーションを取り、お互いの合意を形成するために試行錯誤を繰り返す。

10代半ばという多感な時期に、母国語ではない英語で上手に合意を形成する体験は、将来、様々な交渉の場において、相手の立場に立つて言葉を選び、説得的に伝えるという、鍛錬された語学の力を磨くことにもつながる。

正解のない課題に対して 回答を導く訓練

カレッジでの教育は、世界の多くの大学で入学資格として認められている国際バカロレア（IB: International Baccalaureate）のカリキュラムにのっとっており、各IB科目の要求水準は高く、幅広い知識とともに深い理解力・洞察力が要求される。授業は少人数のクラスで行われ、活発な討論を交えた密度の高いものとなり、科目によってはゼミ

形式が採られたり、自主研究が課せられたりすることも多い。このように、単に知識を吸収するだけでなく、学ぶ側が主体性を持って、正解のない課題に対して、自分なりの答えを導く訓練を積むことが可能となる。

プログラムの一環として、社会福祉・海難救助・山岳救助・海洋生物調査・森林整備など、社会への奉仕活動にも熱心に取り組んでいる。こうした経験は、生徒達の責任感やお互いの友情を育むとともに、地域社会との交流にも役立つ。

前例のない予測困難な時代においては、「平和と持続可能な未来を築く」ことを基本に置きながら、先端技術を活用した革新的な取り組みを行いつつ、新たな答えを導き出すことが必要である。カレッジでの経験は、その姿勢を育むことにつながっていくであろう。

真のグローバル・リーダーの 育成支援を

UWC日本協会では毎年20名程度の生徒を世界のカレッジに派遣しているが、その後、日本企業に就職する卒業生も多い。UWCで養われた異文化理解、コミュニケーション力、

忍耐強い交渉力、豊かなクリエイティビティー（創造力）は、日本企業においても十分発揮されていることと思う。

その他にも卒業生は、企業活動以外の多様な分野でグローバルに活躍している。その1人が、国際宇宙ステーションで船長を務める、宇宙飛行士の星出彰彦さんである。以前、星出さんにお会いした際、「夢の実現」と書かれた色紙をいただいた。

新型コロナウイルス感染拡大により、海外での学びに躊躇する学生も増えているが、若者には夢を諦めずに、一歩踏み出す勇氣を持つてほしい。嘗て英国の首相を務めたウィンストン・チャーチルは、「悲観論者はあらゆる可能性の中に困難を見いだす。楽観論者はあらゆる困難の中にチャンスを見いだす」という言葉を遺した。良い意味での楽観主義も、次世代リーダーに求められる資質だと、私は考えている。

未知の世界へ勇氣ある一歩を踏み出した若者を、ご支援いただいた企業の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援とその輪がさらに広がっていくことを願っています。